

特集 ステキに子育て ～あなたの家族を101倍ハッピーにする方法～



去る7月23日に県立男女共同参画センターで開催したファザーリング全国フォーラム in しが応援企画「あなたの家族を101倍ハッピーにする方法～イクメンでいこう～」のトーク&トーク「笑ってるパパがママを幸せにする！安藤パパと小崎パパ流 パパスイッチのススメ」で、参加者の皆さんを笑顔一杯楽しませてくださった小崎恭弘さんに、県立男女共同参画センター石河美千子所長がお話を伺いました。

所長：今日は、楽しいトークをありがとうございました。若いパパの参加者も多かったですね。

小崎：半分ぐらいでしたか。連れてこられたと言った方もおられました。多くの方が積極的に参加されてましたね。子育てについて関心が高まってきました。昔はこんなことはありませんでした。徐々に変わってきているのです。いい傾向です。急激な社会の変化は、歪みを生みます。緩やかな変化になればいいと思っています。

所長：小崎さんは、育児休業も取得されたと聞きますが育児の楽しさはどういうところですか。

小崎：平成3年に育児休業法がスタートし、僕が育児休業を取得したのは、平成10年ですが、男性保育士になった時より、驚かれました。「制度はあるけど、本当にとるの？」と言われました。周りの方にご協力いただきながら3ヶ月の育児休業をとらせていただいたのですが、子育ては、楽しかったです。時間の流れがゆったりとしていて、子どもと一緒にゆったりとした時間を過ごしていました。子どものためにご飯を作ったり、掃除をしたり洗濯をしたり、特別なことをするわけではないのですが、今から思えばかけがえのない時間でした。

所長：最近の育児中のママはかなりストレスを抱えているようですね。家族の形態も、これまでのおじいちゃんおばあちゃんとの3世代同居から核家族化し、地域との関係も希薄になっています。特に、専業主婦の場合は一日中子どもと一緒に、自分の時間が持てないとか、社会から取り残されるといった思いや育児不安もありますね。一方、パパの方も朝早くから夜遅くまで仕事をし、育児に関わりたくても関われないという事情もあるようです。そのようなパパやママに何かアドバイスはありますか。

小崎：共働き家庭は、専業主婦家庭と比べ、1995年を境に急激に増加しています。これだけ社会の中で家庭の状況が変化しているのに、「子育てだけは、女性が」というように変わらないのは、おかしいですね。家族が多様化していく中で、それぞれの家族が、家族の中での役割を自分たちできちんと話し合っていくことが大切です。パパルールなどとして家族の中でのルールを立てて、戦略的な育児をする必要があります。家族というチームとして父親母親がどんな生き方をしていくかを考えるのです。そして、叔父、叔母、近所など家族以外にもネットワーク化して広げていくことも大切です。子育ての本質は変わらないけれど、方法は変わっていいですよ。



所長：先程のトークの中で、夫婦間での気遣いや言葉掛けが大切だとお話しされた点に、大変共感を覚えます。やはり、相手を思いやる言葉というのは大切ですね。

小崎：そうですね。「ありがとう」の一言はとても良い関係をつくっていきます。男性はもともとあまり気遣いを考えて育つ環境になかったように思います。僕も家庭や職場で気を遣うように心がけています。

所長：パパが子育てに関わることは、子どもにとっても大事な事なのでしょうね。

小崎：子どもが育つために、まず必要なのは、安心安全な環境作りです。これは、家族単体では無理なので、地域社会、企業等さまざまなつながりの中でつくっていくことが必要になります。今の社会では、子どもが育っていく環境で価値観が本当に多様化しています。その多様な価値観を理解して、我が家族はどのように生きていくかを考えるとき、父性母性が必要となってきます。父性＝父親、母性＝母親ということではなく、人

間の中にはどちらもある。母性が女性に先天的にあるというのは大きな間違いでこれは培っていくものであると考えています。父性母性をおじいちゃん、おばあちゃん、地域なども含めてバランスをとって作っていくことが大切ですね。

所長：イクメンの活動も徐々にひろがりつつありますね。

小崎：昨年度、東京都文京区の区長さんが首長で一番最初に育児休業を取得されました。それからは、次々と首長が育児休業をとられています。日本の社会は、一点突破全面展開です。はじめての一步を誰かが踏み出せばみんなが続くのです。

所長：ファザーリング・ジャパンの活動でも、平成24年2月には初の全国フォーラムを滋賀県で開催されるということで、楽しみにしているのですが、今後の展開としてはどのようなことをお考えですか？

小崎：ファザーリング・ジャパンも東京を中心に、九州、中国、関西、東海の4支部を抱え、会員数も全国で200人を超えて、発信する力がついてきたと思っています。しかし、やはり実際に顔の見える関係でつながって一緒に活動をしていきたいと思うと地域ごとの活動になってくると思います。全国展開もしながら、滋賀県（平成23年9月に設立）をはじめ、千葉や多摩地区でも支部を立ち上げていこうと考えています。今度2月に福井県で家族そろってのイベントをするのですが、活動の中で見えてきたことは、20～30代の男性の集まる場がないということです。仕事に対する悩みや家族のことなどを相談したり話し合う場になったいなと思っています。

所長：パパとママが力を合わせて、楽しみながら育児ができたらいいですね。現実にはなかなか難しいこともあるかと思いますが、家事や育児をしてくれるパパを育てるコツがあれば教えてください。

小崎：難しいかもしれませんが、ママたちには、子どもを育てると同じようにパパも育てていただきたい。男性は、子どものこと、子育てのことを全然学んでない。ちょっとずつ教えてもらえて、時々ほめてもらえれば単純なもので・・・。ほめて、おこって、なだめて、すかしてうまく育ててください。パパが2人目のママになる必要は全然ないし、ライバルになる必要もない。パパが育児に参加する良さは多様性にあるのだから、2人が全く同じ事をしなくてもいい。例えばママが優しく細かく育てる部分を受け持ったら、パパは、ダイナミックにおおざっぱな育て方の部分を見ればいい。

1週間に一回か2週間に一回でも、子どもと徹底的に遊ぶ日を作るだけで全然違いますよ。男性が忙しいのはわかるけど、働き方も考えていかないと・・・。過労死するのはほとんど男性です。自分の仕事のやり方、生き方を自分で選べるようにしていきたいですね。

所長：子育てを楽しむパパとママがいて、子育てを支える風土が社会全体に根付くようになれば素晴らしいですね。今日はどうもありがとうございました。



トーク&トーク
「笑っているパパがママを幸せにする！
安藤パパと小崎パパ流 パパスイッチのススメ」



◆ 小崎恭弘さんプロフィール ◆

神戸常盤大学短期大学部准教授
NPO法人 ファザーリング・ジャパン理事

大学卒業後、西宮市役所初の男性保育士として、12年間施設・保育所に勤務。その間に育児休業を3回取得する。保育士と育児休業取得の経験を生かし、男性の育児、男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランスなどの講演や執筆など幅広く活動をおこなっている。著書として「育休父さんの成長日記」（共著、朝日新聞社）、「ワーク・ライフ・バランス入門」（共著、ミネルヴァ書房）。現在、神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科の准教授として教鞭をふるう。3人の男児の父。